

231-am10

実務実習記録による評価に関する運用の工夫とその検証

○地引 綾¹, 鈴木 小夜¹, 岩田 紘樹^{1,2}, 横山 雄太¹, 河添 仁¹, 小林 典子^{1,2}, 藤本 和子¹, 早川 智久^{1,3}, 山浦 克典^{1,2}, 望月 眞弓^{1,3}, 中村 智徳¹ (慶應大薬, ²慶應大薬局, ³慶應大病院薬)

【背景・目的】改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した薬学実務実習では、学習成果基盤型教育の考え方にに基づき「概略評価」と「実務実習記録(日誌・レポート)による評価」が行われる。実務実習記録による評価を行う F(4)および(5)の2領域については、薬学実務実習に関する連絡会議から評価する記載内容が例示されている。これを踏まえ、本学実務実習委員会では、指導薬剤師による客観的で公正な評価と大学での単位認定の利便性を考慮し、具体的な評価基準を示した評価シートを作成した。今年度の実務実習において試行し、有用性を検証する。

【方法】今年度の本学実習生数とのべ施設数はそれぞれ 160 名 237 施設(薬局 156 施設、病院 81 施設)であり、各期実習前に本学実習担当教員 9 名が全実習施設を訪問し、指導薬剤師に対して概略評価および評価シートを用いた実務実習記録による評価の運用に関する説明を行い、実習中の訪問時に評価方法に関するフォローを行った。学生に対しては実習開始直前に説明を行った。実習終了後、各施設に評価シートに関するアンケートを郵送し、同意を得た指導薬剤師からのデータを集計した。

【結果・考察】I 期実習後のアンケートの回収率は、薬局 71%、病院 69%であり、評価シートは、薬局の 93%、病院の 83%で使用され、評価シートの利便性については、薬局で 52%、病院で 83%が便利であると回答した。一方、妥当性については、肯定的な回答が薬局で 56%、病院で 67%、評価結果の客観性については肯定的な回答が薬局、病院ともに 58%であった。利便性に関しては I 期病院において高評価を得たが、その他については約半数にとどまっており、改善の余地があると考えられた。今後、本結果をもとに改善が必要な点について検討し、より有用性の高い評価シートの作成に反映させる予定である。